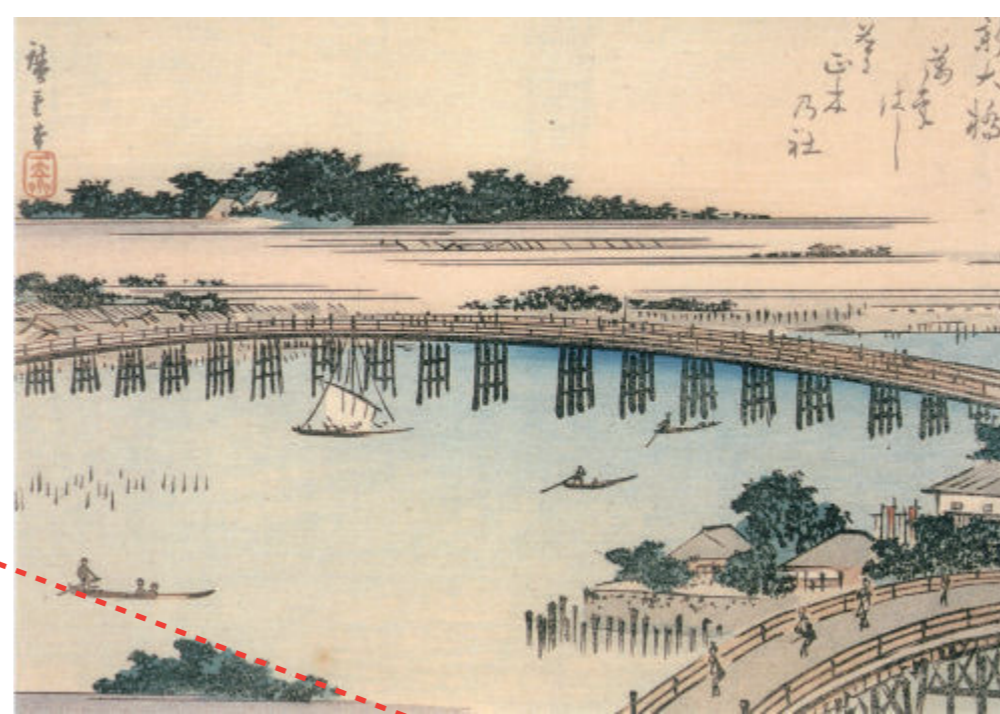


■ site context



小名木川
 1590年頃、徳川家康が兵糧のための塩を千葉県の手賀沼から運ぶために作った運河である。やがて、利根川経由で江戸に運ばれる諸野菜や米、東北地方の年貢や木材といった多様な物資や人を運ぶようになった。結果、江戸物流の重要な運河として機能していった。明治時代に入ると、水運を利用した諸工業のあつまり、工業地帯が形成された。ここで加工された物資は越中島線の小名木川駅から全国へ運ばれた。しかし、これらの工場による過剰な地下水や天然ガスの組み上げにより、小名木川近辺で大規模な地盤沈下がおこり、運河は閉鎖されてしまった。その後、堤防や閘門が次々に設置され、再び船が航行できるようになった。現在は、隅田川より直接分岐しているという場所性から主に観光のための船が数少ないが航行している。



WATER LINE

廃線路の転用と内水被害
 に対する試案

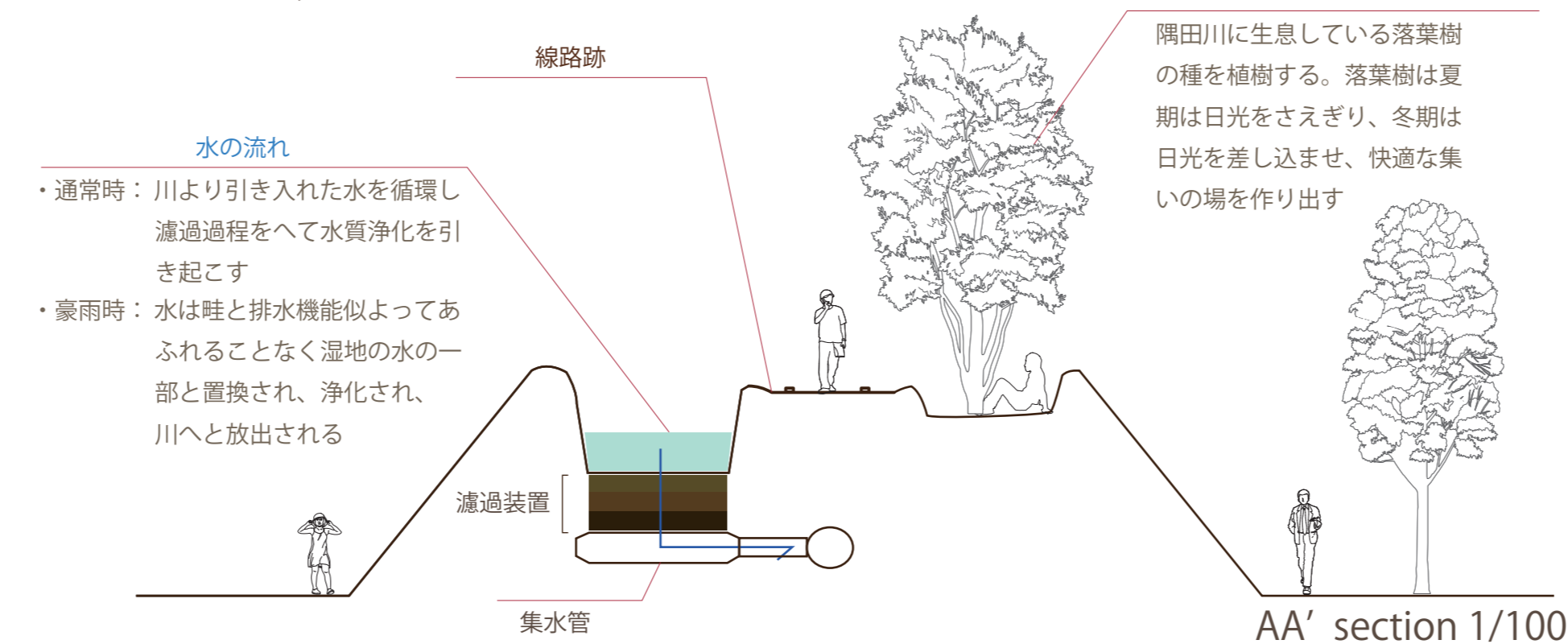
越中島線
 当時は盛んであった小名木川の水運と物流連絡のために1929年に開通。その後、鉄道による貨物輸送が衰退し現在は工事臨時列車による鉄道用レールの輸送のみしか使われておらず、徐々に廃止区間が増えている。今回の計画では時代の変化とともに衰退している互いに関係性の強い産業遺構である小名木川とこの越中島線に着目し、これらの賦活を目指すための試案である。かつては多くの物資をこの街から世界へ運び出し経済発展をもたらしたこの場所をめぐるあらたな街への活かし方の提案である。

■ problem



本計画は今後増加の一途をたどるであろう豪雨による内水被害の軽減を目指す。敷地はかつて栄えていた小名木川をまたぐ越中島線。本計画は日常的には都市の環境装置となり、大気浄化、水質浄化を、またかつての植生の回復により教育施設となる。豪雨時には湿地のもつ貯水能力により内水被害を軽減することができる。

■ proposal 1 system



災害

左に示したものは越中島線跡に計画する湿地帯と森林帯の断面図である。豪雨時は湿地のもつ保水能力によって雨水を蓄え、内水被害を抑える。

浄化

湿地は雨水、川の水をそこに循環させることによって水質浄化を行うことができる。またこのリニアな緑地帯における植物が大気浄化への一助ともなる。

教育

湿地や森の形成がかつての原風景の形成となり、本来の気候に見合った植生の学習のための場となる。

■ proposal 2

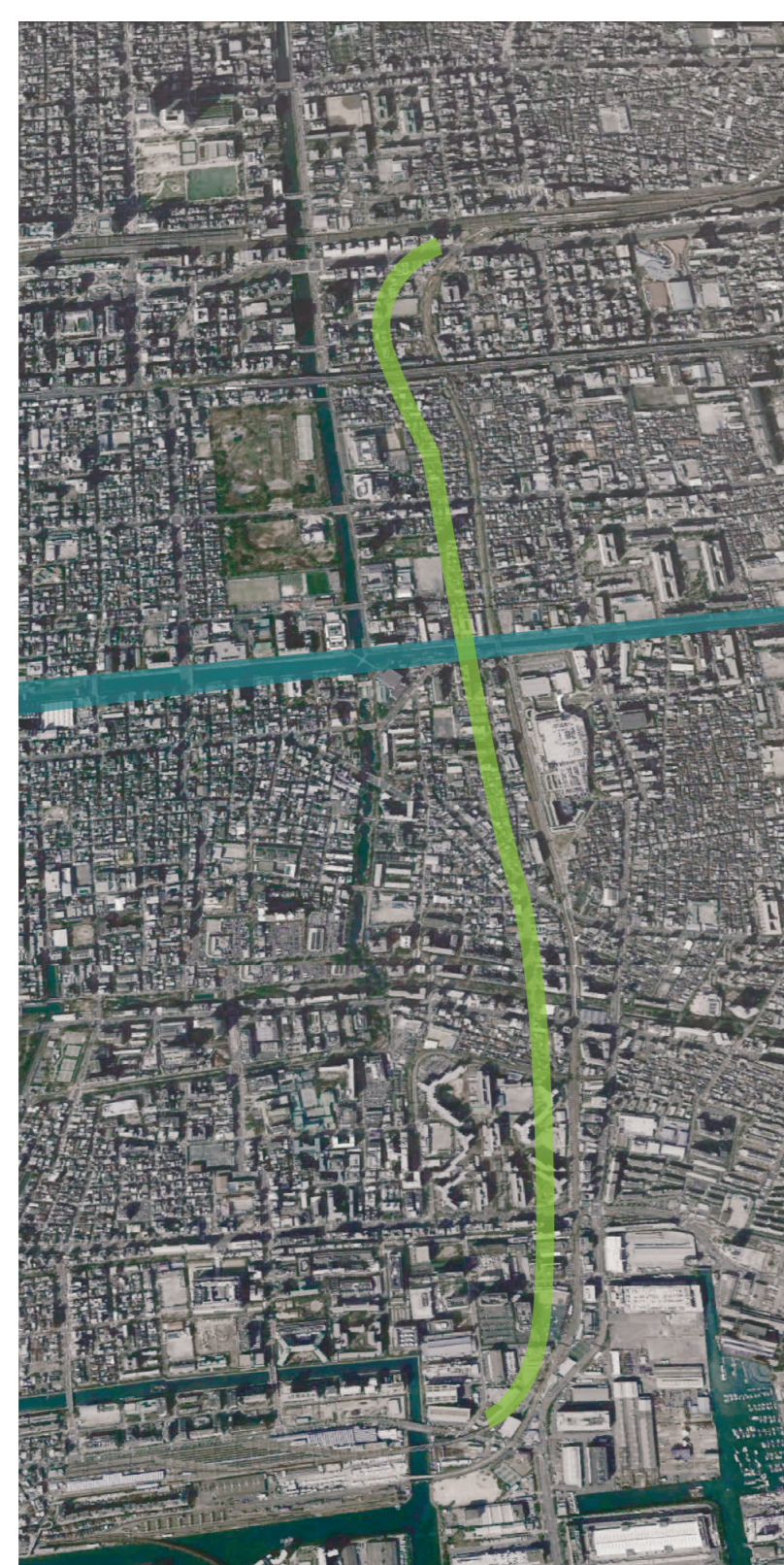


■ 本計画が影響を及ぼす河川
 ■ 越中島線

水質改善

本計画地である越中島線は様々な河川を横断している。本計画の湿地は横断するそれぞれの河川に対して、その水を湿地の中を循環させることで徐々に浄化していく。

■ plan



■ 本計画式敷地

■ perspective drawing



日常的な利用としてはリニアな湿地公園として住民たちに多くのものを提供する。まずかつて大湿地帯であった東京の植生の回復による原風景の獲得とともにここは教育のための場となる。また都市の環境装置として大気浄化と水質浄化、貯水に役立つ。



小名木川上を横断する新たな橋である。これからは人しかわたらないので、前後の湿地公園を延長し森と草原をその上に抱える空間となっている。この橋も水質浄化、大気浄化の機能、かつて江戸時代に人々が橋に託していた集う場所としての機能をもつ。